

生産者の声

(株)アグリ鶴谷
(担い手法人)

大区画化に加えて湿田が解消したことで営農効率がアップした。

幅広畦畔のおかげで除草作業が機械化できた。作業員も高齢化する中、身体的負担が劇的に軽減された。

◆地区の目標◆

- 大区画ほ場を整備
- 農地の集約、経営の大規模化
- 幅広畦畔・溝畔、用水のパイプライン化で、より一層の作業省力化を進め、持続可能な農業経営を目指す。



◇事業の概要◇

○事業工期	平成30年度～令和9年度
○総事業費	35.0億円
○受益面積	75.3ha
○主要工事	整地工 A=75.3ha
(区画整理)	暗渠排水工 A=75.3ha
	用水路工(パイプライン)
	L=16.1km
	排水路工 L=27.0km
	道路工 L=24.7km

事業の実施前

農地、農道が狭小／用排水路未整備

- 地区内の平場は標準区画 30aであったが、沢状の地域では狭小な農地が残存している。
- 農道が砂利道で狭小で、作業効率が悪く大型機械の導入が進まない。
- 原発災害の20km圏内で、地域営農の立て直しが困難。



整備前の農地

事業の内容

ほ場の大区画化／用水路のパイプライン化、幅広畦・溝畔による省力化

- ほ場の大区画化
標準区画を100m×140mで整備
幅広畦畔・溝畔の整備
→他の事業地区への広がり
- 農道の整備
4m/5mに拡幅し砂利舗装で整備
- 用水路のパイプライン化と併せて、パイプラインの水源をダム掛かりのため池1箇所に集約し、水源施設の管理を省力化。



事業の効果

農業法人の設立と集積促進／営農の効率化／管理作業の省力化

- ほ場整備を契機として、農業法人1社が設立。ほか既存1法人との2者で約7割の面的集積((株)アグリ鶴谷、(有)高ライスセンター)
- 麦・大豆・米のブロックローテーションを実施(R5:約8ha)。整備完了後に2法人が全域で実施予定。
- 用水路の管水路化、排水路の整備により、水管理の維持管理労力の軽減が図られている。
- 幅広畦畔・耕畔(幅3m)の整備により、草刈りを機械で実施し、維持管理労力の軽減が図られている。
(従来: 4時間/ha → 整備後: 1時間/haに短縮)

